

主 な 記 事	
ミシガン大学にて.....	1
大学に於ける今後の製糸...2	2
に關した教育と研究.....	3
新卒業諸君の門出に.....	3
第8回卒業論文発表会.....	4
さ ろ ん.....	5
会 員 近 況.....	6

千曲会報

昭和35年4月1日発行

長野県上田市常入

信州大学繊維学部内

編集兼発行人 小山 長 雄

信州大学繊維学部内

発行所 社団法人 千曲会

昭和31年6月18日第3種郵便物認可

毎月1日発行

定価1部15円

振替口座 長野 6243
東京 43341

ミシガン大学にて

横 井 政 時

出発の時は種々有難うございました。その後御無沙汰ばかり致していましたが、早いもので Ann Arbor にまいりました。半年が過ぎようとしております。始めはただ混乱するばかりで、失敗もありましたが、最近はどうも心臓の方だけ強くなったようです。

Ann Arbor は普通のアメリカ地図には出ていないような小さな町です。アメリカ中北部、シカゴからデトロイト行きの汽車で3時間半、デトロイトからは1時間の所です。人口6.5万 といいますが、そのうち2万以上は学生です。ミシガン大学（正確には the University of Michigan）はこの町の大半を占めるキャンパスにまともっています。1817年に

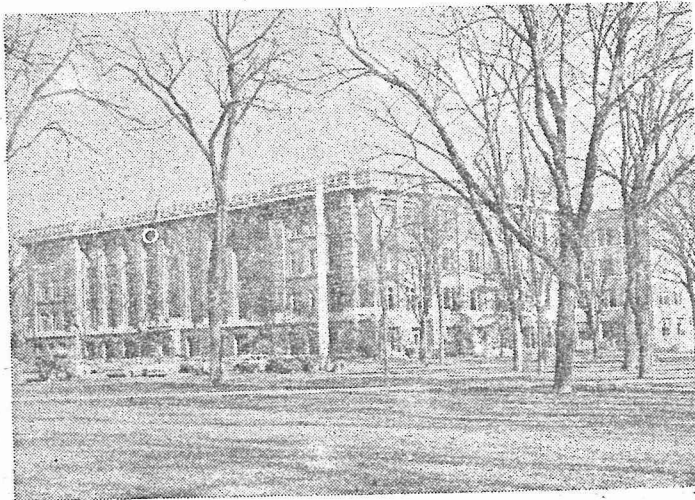
はじまった州立大学ですから古い建物も多く、私の通っている化学教室は数十年前のレンガ造りの建築に新築をつぎたしたものです。屋根には鳩がむらがっていて、私と同じ研究室にいる大学院の学生が新調の背広に糞をかけられてボヤいていたこっけいなこともありました。近くに国旗掲揚塔があり、毎朝8時に星条旗が掲ります。国旗の塔はアメリカ至るところ、およそ官庁、学校、競技場には必ずあります。並木にはリスのかけまわる姿を見かけます。

講義は朝8時から始まります。キャンパスの周囲にある学生寮や下宿から講義にかけつける学生でキャンパスの朝は大変な混雑です。大学院の学生 (graduate student) 以上でないといふ車を大学内に駐車することが許されていないので普通の学生 (undergraduate) は自転車で通学する人が多く、アメリカに来てから自動車の洪水ばかり見て来たのですが、ここに来て、あまりに沢山の自転車が放り出してあるのに驚きました。

9月の第3週から前半の学期が始まり、1月の末に終わります。2月の中旬から後半の学期が始まり6月上旬で終わります。土曜日は講義はないのですが、午前中はセミナーをやっているところもあるようです。何しろすべての講義には毎週相当な宿題とテストがつきものなのですから、週5日とはいえ、よく勉強せざるを得ないように、講義の日程がくんであります。その代り週末には充分楽しく羽根をのばすわけです。約7千の女子学生がいるそうですが、週末の夜の門限には、女子寮の玄関は別れを惜しむ若いカップルで混雑するといふ話を聞きました。

1月中旬にかけての10日間は学期末試験で、学生の最大難

関です。この成績は日常のテストの結果とあわせてA, B, C, ... の grade となり、C以下をとった人は又やり直すようです。というのはあまりCが多いと他の大学に移るよう勧告されるからとのこと。試験後の数日は教官の部屋は学生がひきもぎらず試験の結果を聞きにくるところは、日本の大学と全く同じだと思いました。中にはおどろいて、おどろいて喜ぶ学生もいます。教官の部屋の外には採点された答案が椅子の上と机の上



ミシガン大学化学教室 (○印横井研究室)

であって、学生が自由にもってゆけるようにしてありました。

毎週木曜日の夜8時から、化学教室ではコロキウムがもたれます。大学院の学生と教授が出席し、講師は多く他の大学の若いアクティブな教授、有名な老教授が招かれて自分の研究を紹介します。ノートルダム大学の客員教授で来ておられる水島三郎教授も講演されました。又つい数日前には、ノーベル化学賞の P. Debye 教授が短かい講演をされました。が75才とは思えぬ元気な講演でした。

ミシガン大学には実に各国の留学生が集っています。

リカの大学はどこでもかも知れませんが、ここには日本人百数十人、印度人2百人以上、その他フィリピン、インドネシア、タイ、中国等のアジア人から、中近東南アメリカ人等々です。秋にはワールドフェアといって学生会館の大ダンスホールで各国のお国自慢のダンスや民謡などが紹介され、なかなかの評判でした。

アメリカ内の日本に対する評価は、急激に上昇しているようです。前に述べた化学教室のコロキウムでも、日本人の仕事が引用されることが多く、心強い思いをしました。テレビでも日本の紹介を早川雪洲と山口淑子がやりましたし、下町の店頭には、日本のカメラ、携帯ラジオなどが市をきかせています。

それでも日本に自動車工業はあるのかとか、重工業は…等の質問を受けてびっくりすることもありました。

アメリカ大学のスポーツの最大のイベントは何といってもアメリカンフットボールです。キャンパスから少しはなれた所には10万人を収容するという大スタジアムがあって、9月末から12月始めまで数回の試合がもたれます。観客はかなり遠くから車をかってかけつけてくるようです。この大学はあんまり強くないのですが、地元チームに対する声援は大変なものですね。フットボールのある土曜日の午後は、キャンパス

内は全くひっそりしてしまいます。このシーズンが12月初旬で終ると、今度は室内の競技、アイスホッケー、バスケットボール、水泳、体操、レスリング等のシーズンになります。アイスホッケーの試合を一度みましたが、ものすごく乱暴な、エキサイトさせるゲームでした。フットボールと共に、典型的なアメリカ人好みのスポーツなのでしょう。この場合は観客全部地元チームに応援するのですから遠征チームはやりにくいことだろうと思いました。地元チームが点を入れる度に観客は総立ち、楽隊は校歌を奏するという具合ですから。

一方キャンパスの中には3000人位を収容する音楽堂があり、1月に1、2回大きなコンサートがもたれます。昨年12月のイストラップのリサイタルは非常な好評でした。アメリカンフットボールの入場料がコンサートの切符より高いのは奇妙に思いましたが、前者は大学の予算に繰入れられるとかです。(一般は4弗です)

どうも文才のないままに、拙い印象を書かせていただきましたが、4月には学会に行くことになっておりますので、その模様と大学の研究生活の状況等につきましてお便りいただくつもりです。

遠くより皆様の御健康と御発展を祈っております。

35. 2. 28 (賛助会員)

大学における今後の製糸に関する教育と研究

信大学繊維学部助教授 高 木 春 郎

数年前のことであるが製糸科のある古い先輩から、最近の学生には接續器の二頭式と三頭式の区別も知らない者がいる一体どのような教育をしているのかという苦情を頂戴したことがある。そしてその時なるほど製糸学科というような科と私が出てきた応用化学科というような科では卒業生を受入れる側でも考え方が非常に異なっていることを認識した。応用化学科の卒業生はパルプ会社、染料会社、ゴム会社、肥料会社、繊維会社、樹脂会社、石油会社、ガス会社、油脂会社等々いろいろの産業へ就職するので一々各産業の細かい技術など学ぶ余裕はなく、学生時代は化学技術者として必要な基礎的なことだけを身につけて、就職してから自分の産業の技術を勉強することを当然と考えているし、受入側でも当分は役に立たないことを了としていた。これに対し製糸学科の卒業生は製糸関係の会社や官庁に進むことが前提にしているので、受入側でも就職後直ちに役立つことをある程度期待しているように思われるし、また教育内容もこれに答えるべく行われたようである。両者の差異は学科の性質に起因するものでその良否は云々できないが、製糸学科の場合今迄のような方法で教育をすることが不可能な状態に立至っていることは本年度24名の卒業生中製糸関係へ進む者が3名だけであることから明らかである。

また反面、絹繊維は多くの合成繊維の進出にもかかわらず、国外においてその長所は強く認識されていること、婦人の服装として日本産の生糸が織物用としてはイタリーやフランスの生糸よりも向うであることなどから、現在製糸やこれに

関連した研究の重要なことは周知のとおりである。製糸関係の研究官庁は少なく、会社は研究施設を持たない中小企業が多く、二三の大会社もいろいろの理由から次第に研究を行えなくなってきている状況にあり、現在および今後の大学における製糸に関する研究の役割の重大なことは非常なものであると思われる。

ある人は製糸や絹の研究の重要なことからこれらに関連した学科の在置の必要性を説き、またある人は製糸関係への新卒業生の進出の激減から製糸関係の研究までも放棄すべきであるかの言をはく向もあるが、そのいずれも一考を要するものと思う。

製糸学科の名称は近い将来改変され、卒業生はより広い分野へ傍系という形で進出できる体制になると思うが、その場合でも製糸技術者向の教育を廢止するわけではなく、卒業直役役立つという点では劣るかもしれないが長い目でみれば今迄以上に適格なものを養成できるものと期待している。

製糸学科が改変された場合現在の製糸学科の教官の大部分は表面製糸に関係のない名称の講座に配属されることになりそれぞれ新しい(基礎的な応用範囲の広い)勉強をせざるを得ない立場に立つであろう。その場合具体的な研究内容として製糸やこれに関連した問題の占める割合が現在より小さくなる可能性はあるが、外部からの激励と教官(研究者)相互の協力がえられれば、今迄より各研究者が製糸技術に対しても異なった観点から検討し得るだけ、より意義のある研究ができるのではないかと考えられるし、業界が要望する限り是非そうし成いと思っている。

覆がえった前者から

—新卒業諸君の門出に—

鈴木教吾

新しい卒業生諸君が、はち切れる様な希望に胸を膨らませながら、実社会へのスタートを切る月だ。こうして数十万に及ぶ新進有為の使徒たちを迎えるのだから、民族の大祭典として国を挙げての盛宴を張ってその前途を祝福すべきだ。敗残の老兵も、病軀を陋屋に横たえながら、謹んで諸君の門出に対し、貧しい祝詞に兼ねて感想の一端を申し上げたいのだ。

1.

「岩戸景気」など言う奇妙なキャッチ・フレーズの横行している昨今だ。諸君の殆んどは希望通りの職場に就職されたことと思うが、それでもそれ等就職先には大組織、大企業と中小企業と見られる別がある筈だ。従来前者は第一次志望後者は「止むを得ぬ」との形容詞つき就職が多かった。わが国の所謂中小企業による生産数量及びその雇用労働者は、圧倒的に多い。従ってそれ等の健全なる発展成長は国家民族の発展成長と同意語だ。従って「中小企業育成」はわが国政の最も重要な喫緊事となったのである。一方大規模生産工程は相当の速度でオートメーション化が進められ、それによって人間が機械の附属品又はその部品化して来たが、中小企業に於ける生産の全工程は、人間の創造力と精密なる技術とを、いよいよ高度に要求して来た。そこに仕事と人間性との尊い合致が存在する。しかも中小企業の生産分野は大企業の容易に侵し得ない特性を持っている。日本商品ブームはその製品に人間の温かい皮膚の感じがあるからだ、と或る外人から直接聞いたことがある。中小企業だと言うことのみで徒らに卑下したり、他に転職の機会をうかがったりすることはやめて、寧ろ中小企業の使命達成と、その本然の姿を確立することに精進すべきだと思う。

2.

如何なる社会においても「これだけは誰にも敗けない」と言う実力と確信とを得ることは、人生最大の快事だ。人間の一事貫行力の強大さには、しばしば驚かされる「こんな事」に凝ってと、仲間から変物扱いされた人物が遂に前人未踏の境地を拓いた実例は、学界、業界や一般市井にも、さらに見受けられる。それは単に発明考案にのみ限るものではない。この際私事にわたって甚だ恐縮だが、その点私は完全なる敗北者だ。2人の親友と30年後の意義ある会見を約束して社会にスタートした筈だったが、365日殆んど自分の時間が無かったなど多忙にかまけて何等の為すところなく終って了ったのだ。多忙こそが無上の修練場な筈だ。この天与の好条件をも悟らず、徒らに受け身の多忙に醒醒奔命に疲れ過ぎたことは無知だったとは言え、惜しみても余りあることだ。友の1人は東京一流新聞の論説委員を最後に、地方落ちて九州の某新聞社長となり、稀に上京して「まだ生きていたか」などと電話を架ける程度で、3年前亡くなった。通り一べんの多少秀でたジャーナリストに過ぎなかった。

1人は某私大の教授だが、一般には全く縁無き存在で、2、3の著書はあるが、同大学の学生（他の学部）すら私の間にその名を知らないと言った程だ。

3.

「多忙」と言っても絶対に口実にはならない、彼の森閑外を見よ。終生公職にあり、大陸の戦線にまで出征しながらあの偉大な文学上の業績だ。全集23巻、2万3千頁総字数1千8百40万字だ。2百字詰原稿用紙にして9万2千枚、それを22才から死の61才まで42年間に割当てると、1日平均6枚ずつ書いたことになる。これに要した参考書の読破や調査旅行の時間などを加えたら、実に驚くべき努力だ。医学が専門でその方面の業績も相当認められているのだから、一層驚かざるを得ない。天与の英才で凡人の及ぶべきではないかも知れないが、少年時代からも努力精進超人的な時間の活用などを見れば「天才」の2字はだんだん影が薄くなって来る。

序でだから坪内逍遙について見よう。畢生の仕事は沙翁劇の翻譯だが「新修シェークスピア全集」40巻の何れを取って見ても、本格的な日本文で、翻譯臭のかけらだにない全くの創作だ。早稲大学の講義では、流暢な台詞に声色をまじえて身振り、手振りよろしく自在に沙翁劇の雰囲気や教室に漲らしていたと、聴講者の自慢話を聞かされたことがある。それだけに原文及びそれに該当する日本語は暗らんにしていた筈なのに決定版「新修本」の一部原稿（オセロー）を見て驚歎畏敬の念を更に新たにした。その原文は印刷だから、少くとも第二校以後だ。天地左右行間の余白に赤インク朱筆の訂正文字を上下左右斜め、縦横無尽に書き入れ、残存字数は原文の半位だ。河竹繁俊の言によれば、こうして校正は少なくとも四校、多きは六校以上に及んだと言う。坪内士行が書斎からの話声で来客かと思つて見たら、逍遙が訳文を朗読して耳から入る日本語の語調を吟味していたと言う。

4.

また一気呵成に千万語と雖ども立ちどころに成ると言う感じの夏目漱石の原稿にも、修正の甚だしいのがある。「文学論」の或る箇所279字の原稿が僅か70字を残して380字を加えたなどはその一例だ。

パリの Salon des Tuileris に日本人画家として最初の客員に推薦された人が、興に乗って鋭い気合と共に、満月の墨絵を描き呉れた。談笑しながらコンパスを当てて見たら、完全なる円だ。それを眺めて『そんなことをしても何十万（或は何百万かなア）の円を書いて居るんだから、鈴木さん、駄目だよ』と、笑殺されたことがある。

こんな例は私どもの身边にも数限りなくある。にも拘わらずわが人生に茫々60年全く文字通りの無為無能、思えば淋しい限りであるが、泣き事ではない。前者の覆がえった実例を悟って深く後者の戒めとしたのである。

（※8卒・元都農産株式会社社長）

退 官 御 挨拶

林 貞 三

陽春の砌り愈々、御清栄の段慶賀申し上げます。さて此度私は定年により信州大学教授繊維学部長を退任することになりました。

顧みれば大正9年上田蚕糸専門学校助教授に就任以来40年の長きに亘り同じ学会に微力を捧げ得ましたことは生涯の感激であります。これ偏に同窓各位の絶大なる御援助の賜でありましてここに深厚なる謝意を表する次第であります。

尚後任学部長として理学博士小泉清明教授を迎えましたが私同様御高援を賜りますよう御願い申し上げます。

昭和 35 年 3 月 31 日

第 8 回 卒 業 論 文 発 表 会

大学第8回卒業式は本学部講堂において盛大に行われたが、これに先立ち3月2日卒業生の卒業研究論文発表会が各学科教室において、教官学生多数出席のもとに行われた。以下はその発表論文の標題である。紡織学科、繊維化学科の卒業論文は次号No.99号に掲載する。

蚕 学 科

研究室名	研究学生	研 究 題 目
長島研究室	高沼 重義	黒結劣性赤蠶におけるくびれ蚕発現の遺伝学的研究
長島研究室	富田 克衛	再出卵に関する研究
長島研究室	和田 宗昭	家蚕皮膚のメラニン形成におけるトリプトファン誘導物質の影響
古平研究室	大見 博記	菌核病菌 (Sclerotium sclerotiorum (Lib) deBary) の生産する植物に対する毒性物質に関する研究
古平研究室	清水 久雄	Aspergillus flavus Link の生産する蚕に対する毒性物質に関する研究
古平研究室	白井 毅	紫紋羽病菌 (Helicobaculum Momoi Tanaka) の生産する植物に対する毒性物質に関する研究
関一研究室	飯島 誠	桑樹雄花穂の生熟分裂に及ぼすホルモンの影響
関一研究室	大矢 安	倍数性桑樹の組織形態的研究
武田研究室	土岐 正身	熟精液保存中における精子の畸形成について
田口研究室	伊藤 義正	桑枝条の生理的性状の季節的变化について
田口研究室	菅沼 性一	桑その他作物幼根の紫外線蛍光物質分泌に関する研究
田口研究室	竜野 敬	桑葉の差生葉位による細胞液屈折率その他の生理的性状の変化、特に倍数性桑樹と2倍体桑樹との比較について
田口研究室	塚田 允	日長条件に対する発育反応の相違より見た桑品種の生態型の解析
小泉研究室	白田 勉夫	パルプ工場廃水の河川の化学的水質に及ぼす影響
小泉研究室	小口 雄男	家蚕体の脂肪酸抗性に関する研究 軟葉、硬葉、軟葉給与蚕と高温多湿飼育蚕のリパーゼ活動
小泉研究室	棚橋 三郎	木曾川の生物相について
小泉研究室	中村 隆幸	殺虫剤の Formulation と昆虫皮膚の透過性との関係
八木研究室	篠原 正樹	数種の蝶類の複眼を翅長および触角における相対成長現象
矢木研究室	倉田 啓而	桑園の草生導入に関する研究
矢木研究室	小山 陽子	桑樹とりんごに対する塩安肥効に関する研究
矢木研究室	手塚 望生	桑樹の鉄、マンガン吸収に対する銅施用の影響について
松尾研究室	小林 勝	桑葉皮生体培地及び生体桑葉抽出液を通過した桑芽枯病菌の病原力分生子増及び子葉子葉形成度の变化

松尾研究室 下田 幸男

紫外線照射による桑芽枯病菌のSALTANT について

松尾研究室 堀 功

桑芽枯病の薬剤防除に関する研究

坂口研究室 飯島 政信

細菌による羊毛の分解について

製 糸 学 科

研究室名	研究学生	研 究 題 目
内田研究室	渡辺 博司	合成樹脂被覆線の摩擦
荻原研究室	矢島 三 仁科 和十	絹の品質改善に関する研究
柳沢研究室	関本 健一 馬島 浩平	銅線の被覆工程とスナール現象の解明
柳沢研究室	久保 幸彦	繊維物性の静力学的研究
会田研究室	菅原 克男	酸性染料染色に於ける助剤の効果
白井研究室	沢田 克行	水質改良剤がセリシンに及ぼす影響
白井研究室	植松 武光	バルキーンシルク製造に関する基礎的研究
林 研究室	和田 耕治	自動繰糸感知機に及ぼす原料性状と繰糸条件の影響ならびに感知機度の自記機構について
林 研究室	蒲生 昌明	繰糸法よりみた生糸特性の用途別改善に関する基礎的研究 第1報 繭の性状ならびに繰糸方法が生糸摩擦係数・振り・剛さ・粘弾性および強伸度におよぼす影響について
林 研究室	加々美 尋久	第2報 生糸のクリープにおよぼす繰糸張力の影響について
林 研究室	棚田 純夫	第3報 繰糸法別生糸の染料吸着性について
高木研究室	宮崎 親作	水質改良 (鉄分の除去) について
高木研究室	兎東 伴之	二成分系繊維の剛性率
宮坂研究室	長畑 茂	産業関連分析について
宮坂研究室	滝沢 欣宏	マネージメントの実践化について
宮坂研究室	川本 孝男 森本 彰	繊維統合の問題について
石川研究室	山本善一郎	絹織物の機械的性質におよぼすセリシン量の影響
石川研究室	堀川 昌士	絹織物形態発生機構の一考察
石川研究室	大野 幸彦	分光光度計に依る絹糸の紫外線吸収スペクトルとその機械的性質について



学説さまざま

“Look Younger live longer” というベストセラー本を書いたアメリカの栄養学者ゲーロート・ハウザー博士は生野菜のジュースを飲むことをすすめて、その材料中の大切なものとしてホーレン草をあげている。マン画映画の人気物だったパイの強力素もホーレン草のカン詰である。ところが最近、ホーレン草が骨格形成に大切なカルシウムを分解破壊する有害物であるといわれ町の八百屋さんは大恐慌をきたしている……この有害な酢酸の害も煮るとなくなる……胃潰瘍にはしつこいものは絶対に不可とされていたのがドイツの医者が最近肉類が一番よいと言出し日本でも試みられ成績がよいとのことだ。菌の充填物に銅含有物をもっていると長い間に銅がとけ出して有毒であると言われたが最近ではビタミンと一緒に銅、鉄、亜鉛、コバルトなどのミネラルをのむのが健康法の最良処置とされて来た。盲腸炎も吾々がやった頃(昭9)は手術後三日間は安静、不香、不食であったのが最近では朝手術すれば夕方には番菜位は香ませる。最近起きた松代(長野)の集団盲腸炎の誤診問題も病院が泉熱による虫垂炎として手術をしたのに対し、泉熱の権威者(?)といわれる医師たちが泉熱による回腸末端炎だと主張したが(従来の医学上の通説とか)結局盲腸炎が正しいことになり大勢の子供達の生命をとりとめたのである。ブラジルのジョルジ・エルデニー博士は(1953)ナイロンを常用すると静電気のためにヒップに炎症を起し、そこからウィルス菌が浸入しガンを起こすと発表して業界に反響をよんだ……等々学説の変せんは実に目まぐるしい。とくに医学方面ではその学説が人の生命に関するので事は実に重大である。吾々の仕事でも同じようなことが次々に起っているのではあるまいか。かつて黄菌良質説がとなえられ欧州などから黄菌種が輸入され、日本産菌の大部分がこれにおきかえられたが、また次第に白菌優良説がでていつのまにか黄菌は影をばっした。と思ったらまた最近黄菌良質

説が台頭して来た。また中共生糸が質がよくそれは単織度が細いからだといひ、ワイヤーロープ説(?)とか、が謳歌され、中共糸を見習えということになりそれぞれの専門家が苦心惨々研究の結果次第に細糸ができるようになって来た。途端にまた最近太糸がよいから太織度のものをつくれといわれて来た。医学方面ほどの危険はないがこんなに世の中(?)の要求が猫の眼のように変わったのではないだろう。そのほか菌を乾かす方法でも、煮る方法でも、繰る方法でもだんだん変って来ている。これらは学説というには少し表現が大げさだが言ってみれば流行と規を一つにするような感がないでもない。最近男子の洋服のズボンは先細のものが流行したがこれは30年も前に流行した型だ。女子の洋服のスカートも長くなったり短くなったり、嗜好が何々ラインとかいって年毎に変って来る。ハイカラな人はこの流行を追うのに頭を悩ますことだろう。こんなことは吾々日常生活上の実効性とは全く無関係で商人の商魂の現われでしかない。世の中の進歩などと言うことのなかには案外このような事態が多いのではないか。人間の生活の前には主幹線が遙かな未来に向けて一本貫いており、さまざまな人々がこの本道に添って進んで行く間に、ある人は右に左に道草を喰ひ、ある人は行きつもどりつしながら、あるいは早く、あるいはおそく歩を進め、時間と労力を無駄にしながらかつて歩を進んで行くのである。そして各人は短かい人生の間に些細な欲望を充しながら、また研究業績をつみながら次代へと研究のバトンを渡して行くのである。(35—2—20)糸12回荻原。

口は口ほどにものをいう

黒 岩 茂 隆

学生のころのこと。あるとき友人がこんなことをいった。「あいつは気持の悪い女だよ。廊下で行き会ったりすると、必ず立ちどまってじっと後をふりかえり、にやにや人の顔を見る」と。広い世の中には一人ぐらひはそういう変な女もいるかも知れない。しかし後をふりかえって人の顔をみつめたのは、はたして彼女だけだったろうか。「なあんだ。そういうお前もそうぢやないか」まことに「口は口ほどにものをい

う」ものである。

「あの人はこんなことをする人だ」とよく他人の陰口をたたく人がいる。そうすると、印象としては、その人は絶対にそんなことをしない真面目な社会人ということになる。実はその人こそ、そういうことを平気でする人であっても。よく世渡り上手というのがあるが、そんな人は大ていこれに類する手をつかい、それがもう身についている人である。「あそこの奥さんは遊び好きよ。ダンスホールや映画館へ行くとしょっちゅう会いますよ」というようなことをきく。顔面通りにうけとれば、この人は真面目な正直な奥さんということになるかも知れないが、はたしてどちらがどうだろうか。田舎へいくと「あそこでは目にみえないこんな収入が相当ありますよ」と、投書したり、税務署へわざわざ密告にいく人が割合にあるといふことだ。そして帰するところお互のいがみ合に終るのがせきの山であつたりするが、こういう人こそ物事のごまかしに才たけていたり、当然もつと税金をおさめなくてはならない対象であつたりする。

若い男女のグループや団体に旅行によくとよくあることだが、ある特定の二大の行動がどうしても気にかかり「単独行動をとってけしからん」だとか「夜おそくかえって来て、人に心配をかけて平気でいる」だとかいって、必要以上に腹を立て、人をとがめだてするのをよくみかけることがある。人間というものは面白いものである。

もっと深刻な話がある。戦時中、軍の報道教育関係にあったある相当の高官の講演をきいたことがある。その人は「八紘一宇の精神とは、世界永遠の平和の下に、全人類がおのおのその所を得て、人間らしく生存しうる……」といって戦争目的をいいた。そして「だからミビエリの戦いであり、ミ聖戦である」と大声できけんだまではよかったが「それをアメリカ人はどうでしょうか、まるで日本人を朝鮮人や支那人のように取り扱う」と力説した。八紘一宇という言葉そのものは成る程美しい。しかし当時日本の軍部のもっていたセンスはこんなものであったのである。

人をけなしたり、陰口をたたいたりする言葉の中には「実は自分がそうである」ことや、おろかな自己の姿をそのまま表現している場合が非常に多いもの

だ。相手を自分のもっている物差でおしはかっている錯覚がそうさせるのであるが、自分がそうだからといって相手もそうだと限らないものである。敗戦直後アメリカ軍が進駐してくるとき、どんなことをされるかわからないといって、われわれはみな恐怖におののいた。しかしそれ以上に恐れたのは進駐してくるアメリカ軍の方であったのである。

「世間では嫁・しうとの仲というけれども、私は決してそんなことはない。まるで自分の娘と同じだ」といって、本当は私がいらいからだということをやたらに吹聴したがるおしうとさんがよくある。「自分の娘と同じ」ととくに意識したりあえてそういうことを口に出していなければならぬだけ無理があり、やはり他と変りないと思うのだが……。いやよく考えてみると、自分でわざわざえらぶてみせるだけ普通のレベル以下かも知れない。こういう人に限って、いつまでたっても「うちのよめ、うちのよめ」で、ことさら「よめ」が耳ざわりであったりする。世の中にはいやに見識ぶったり、知識をふりまいてえらぶてみせる人がままあるものだ。そのこと自体がもうすでに自分を普通のレベルか場合によってはそれ以下におとすものであることこんなささいなことすらわきまえないで。だからこういう種類のことは口に出すべきではないのである。

また人によってはえらく強がりを出している人も時折いる。ある大学で、その宴会の酒の席上で、某教授が若手のグループに向かって「君達若いのが幾人いてもおれはさっぱりこわくないぞ」といったそうである。しかしどうだろうか。どうしてもそういうことをいわずにしなければならないだけ、恐れているということにはならないだろうか。まったくこんなようなことは口にしてしまったら、もうそれでおしまいなのである。

ある女性が自分の娘の将来をおもんばかって、あるとき「男の子はほっておいても自分で自分の相手を探すことができるけれど、女の子はそうはいかないので心配だ」と述べた。ところがそれをきいて若い男が「いや奥さん近頃はむしろ女の子の方がそうですよ」とやってのけたので「あら、そんなことありませんわ女性はずっと本質的に……」「いや絶対にそうではないんですよ」などと、ついにちよつとしたいい争いになってしまった。一体どちらに軍配をあげたらよ

いのだろうか。本当は互に相手あつてのことなので、結局は同じことになるのだが。二人とも勝手な方であつたので、このいい合いはしばらくつづいた。こんな「鶏と卵」に類するような水かけ論をよくむきになってやっている姿をみかけるが、これも両者（男女）相ゆずるまいとする一種の強がりにはすぎないのである。つつしむべきは口である。

会 員 近 況

千曲会愛知支会東三河支部会報告

余寒尚厳しい2月14日、35年度東三千曲会を豊橋の中心街「食堂」を会場として開催いたしました。今回は昨年度の母校50周年記念式協力に関する協議会に於て決定をみた募金の件の総仕上げとして支部完納運動を議する目的で極く内輪な集まりといたしました。当日は本地方としては気温低く寒風が強かった為か、参加者は8名、併し熱心な方々ばかりでした。定刻3時開会、開会間もなく支会長香掛久雄氏が東京での所用を終えられて、又本部より坂口育三助教授も遙々上田から夫々来会され総員10名、ささやか乍ら和気藹々裡に議事を進め5時半頃一応閉会その後坂口先生を囲んで近住の者4名、四方山の歓談に時を過ごし久々に同窓の親睦を深めることが出来ました。当日協議した事項を要約いたしますと、

- 1 現在までの愛知支会の募金進行状況の報告
 - 2 現在未申込者を手分けて訪問協力を仰ぐ手筈を決めたこととなります。
- 尚当日来会された諸氏は次の如くでした以上簡単なが支部会の報告といたします。

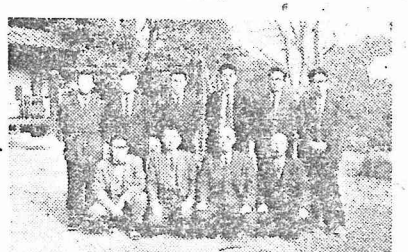
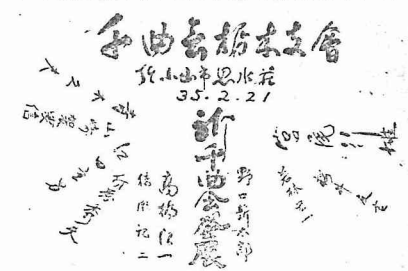
大久保福三郎	(※6)
原 茂	(※13)
松 田 得 治	(※28)
鈴木 竹 男	(紡26)
松 田 清	(農2)
樫田 昭一郎	(※35)
池 田 勉	(学※6)
及び小生内 藤 康 三	(※25)

栃木支会総会便り

2月21日午前11時、野口理事長を迎えて小山市思水荘に於て千曲会栃木支会の総会が催うされた。当支会が理事長を迎えて総会を開くと云うことは稀なることでもあるので是非多数の会員の出席を促して意義ある会合を持ちたいことを望んで居たのであるが余儀ない事情のため出席出来なかった者が多かったのは聊か淋

しさを感じられた次第であるが全地区を網羅した顔振れであった。

協議は、オコタを囲む座談会の形式で実になごやかなる中に高橋支会長の挨拶並に先年度の千曲会支会の行事並に会計報告あり。引続き各地区代表の50周年募金の集金状況について説明あり。募金並に千曲会費に於ては本部の計画通りに大



体80%の協力を果すことが出来たことは嬉しいが然し今後とも母校の発展のために千曲会のためにも一層協力して行きたいと云うことに一決したのである。

野口理事長よりは母校の現状並に50周年記念募金の状況やら記念式典に関する行事等を懇切詳細に拝聴することが出来ましたことはこの上もない期待と喜びでありました。

理事長が支会に出向いて支会員と膝を交えて親しく語り合うことは千曲会連合のためにも母校の発展のためにも誠に意義深いものであることを感ずる次第であります。

議事終つて懇親会に入るに先だち思水荘園庭にて記念撮影。寄書等をなして下野の美酒に陶然として歓談した。その内に高橋支会長の南洋土人踊り、伊那踊りを始めとして会員諸氏のおはこが統々として展開され、栃木支会の意気は物すごく芸人揃いであつて美酒は尽きなかったが、野口理事長の踊りを拝見したのは初めてであつて、とても、みんなが嬉しくて悦んだことはこよなき限りでありました。母校の校歌を合唱し、野口先生の音頭で母校、栃木千曲会の万歳を三唱し、来る日の再会を約して解散した。(佐藤記)

当日の出席者は次の通りであつた。

高橋一 (※8 支会長) 猪瀬親二 (※16 副支会長) 宮尾行雄 (※22 幹事) 佐藤秀夫 (※30 幹事) 若林宏一 (※33) 桜井友吉 (※別1) 山崎親俊 (学※2) 青木久夫 (学※5) 江田重男 (化4)

50 周年記念事業募金申込及納入状況

(註) 二本線は折返

(35. 3. 22 現在)

支会名	募金申込額		募金納入額		募金申込達成率(%)										
	人員	金額	人員	金額	40	50	60	70	80	90	100	110	120		
北海道	4	7,500	2	4,500	—										
北 奥	29	51,900	17	27,200	—										
山 形	17	58,000	6	17,500	—										
宮 城	23	78,500	21	42,400	—										
福 島	55	151,500	38	97,000	—										
茨 城	44	80,000	36	61,000	—										
栃 木	21	41,000	19	39,500	—										
群 馬	103	268,800	6	19,000	—										
埼 玉	102	238,000	34	72,500	—										
千 葉	14	59,500	14	55,500	—										
東 京	155	413,100	125	281,500	—										
神奈川	44	119,500	30	83,000	—										
山 梨	22	43,000	1	5,000	—										
越 佐	16	48,500	12	27,000	—										
富 山	43	90,500	25	56,000	—										
石 川	17	38,250	14	26,300	—										
福 井	13	35,200	8	22,000	—										
北佐久	21	93,500	8	34,000	—										
南佐久	18	50,000	12	29,500	—										
上 小	145	420,500	75	179,600	—										
学 内	98	464,500	81	274,500	—										
更 埴	68	181,900	40	96,200	—										
北 信	76	206,500	23	68,000	—										
安 筑	85	210,000	54	125,500	—										
諏 訪	35	215,000	3	11,500	—										
竜 川	21	51,500	14	25,500	—										
岐 阜	31	92,500	24	75,000	—										
静 岡	20	61,500	6	20,000	—										
愛 知	202	409,600	175	351,800	—										
三 重	31	80,300	29	56,900	—										
近 畿	74	195,000	74	195,000	—										
兵 庫	63	164,600	13	27,300	—										
三 丹	45	163,500	37	114,500	—										
山 陽	34	103,000	29	87,500	—										
山 陰	15	45,000	11	25,000	—										
徳 島	12	40,500	9	31,000	—										
高 知	8	15,500	6	8,500	—										
愛 媛	21	80,000	18	44,250	—										
香 川	1	10,000	—	—	—										
北九州	28	79,500	19	53,000	—										
熊 本	11	28,500	11	28,500	—										
宮 崎	7	26,500	6	21,000	—										
鹿 児 島	11	30,000	9	24,000	—										
朝 鮮 台	2	5,000	1	3,000	—										
計	1,905	5,346,220	1,195	2,947,450	—										

母校だよ

- 3月10日午前10時から第8回卒業授与式が厳粛に挙行された。
- 3月15日小中高校、教員の科挙のための科学教育研究寮の修了盛大に行われた。
- 3月22日23日24日の3日間にわたって、系別科の入学試験が行われた。

千曲会告知板

記念事業募金目標達成

○50周年記念事業募金申し込みについて支会実行委員長をはじめ、事の多大の御尽力と会員の御協力により左表の通り募金目標に達成しました。と感謝申し上げますと共に誠に同様にあります。

このことについては会報新年号の野口理事長の年頭所感にあります。世紀の祝賀事業でありますから全御協賛を得たいので募金申し込みにおられない方は事務御多忙のためになつた事と思いますのでこの募金申し込みと納入下さいますようお願いいたします。

新 会 員 を 迎 え て

○3月10日母校繊維学部第8回卒業本会を代表して若林實雄氏(昭伴)締役上田工場長)が卒業生に挨拶された。

卒業式終了後講堂において野口理事長から千曲会の説明をされ任地坂場が決定したら支会長に挨拶状を出すように全国支会長名、連絡事務所の一覧表を配布し卒業生に記念として証書入付。

50周年記念事業について説明された。既に会員及び御協賛金が決定し目標達成に達するから新会員も協賛するよう。

会報編集委員会

○3月14日委員会において会報原稿を寄せられるようにとの希望があった。会報発刊100号も近いので繊維産業振興の問題をはじめ、啓発され、親しい会報とした。

○3月16日学内理事会

○3月16日学内理事会

昭和35年6月18日
印刷物認可

千曲会報

昭和35年4月1日

行委員長、笠原正己上田市商工
母袋忠右衛門市議の来会
の役員会の日取りその他に
た。

長証書

会 日 誌

- 2月21日栃木支会総会に野口理事長出席。
- 2月23日埼玉支会中沢正治氏来会。
- 2月28日群馬支会総会に田口理事出席
- 2月28日愛知支会名古屋、愛日、知多
区総会に町田理事出席。
- 29日三重支会白沢幹氏来会。
- 1日上小支会窪田作水氏来会。
- 2日山形支会井上貞二氏来会。
- 月3日竜川支会筒井忠夫氏来会。
- 5日愛知支会尾西津島地区総会に
理事出席。
- 7日北信支会牧野嘉雄氏来会。
- 7日山陰支会田中治雄氏来会。
- 8日上小支会長和田晋氏来会。
- 11日愛知支会長香掛久雄氏来会。
- 19日茨城支会鈴木昭氏来会。

50周年記念事業募金申込

- 埼玉支会
1,000円 中沢正治 (学紡6)
- 群馬支会
5,000円 小林良直 (紡2)
新野光治郎 (蚕21)
山岸保雄 (蚕29)
伊藤敏之 (糸15) 上野正美
吉田俊文 (糸31)
500円 坂口稲三 (蚕24) 大森文作
(蚕33後)
- 000円 加藤喜一郎 (蚕3) 斎藤菊
(蚕6) 桑島宜治 (蚕36) 倉沢正利
(蚕36) 岩岡辰雄 (蚕36) 飯島祐介 (学
紡3) 腰塚正吉 (農
糸35) 本山睦夫 (化

- 2)
1,500円 勅使河原薫之助 (蚕19) 小
池渥 (学蚕1) 米沢秀衛 (学蚕4)
1,000円 戸部正元 (蚕19) 佐藤裕 (学
蚕4) 木暮博 (学蚕6) 高松珍夫 (糸
18) 牧野通夫 (糸34) 藤原隆夫 (糸37)
中畑秩 (学糸1) 竹本きみ子 (教5)
岩井清 (専修)
800円 唐木華江 (教7)
500円 一之瀬和子 (糸別5) 吉沢和
弥 (農4) 佐藤和夫 (農3)
- 3 東京支会
1,000円 古畑栄 (学糸7) 羽場清人
(学紡3)
- 4 越佐支会
3,000円 上村賢造 (蚕21)
1,000円 阿部信夫 (糸29)
- 5 石川支会
3,000円 藤島一千 (紡12)
- 6 富山支会
1,500円 田村幸男 (紡30)
- 7 北佐久支会
2,000円 青井志づ (養4)
- 8 上小支会
10,000円 武田兵助 (農1)
4,000円 金沢勇 (蚕17)
2,000円 窪田作水 (化2) 大田速雄
(糸25)
1,500円 井出美和 (学紡1) 柳沢市
登 (学紡1)
1,000円 小林正 (学紡2) 甲田和利
(学紡2) 山辺好徳 (学蚕5) 蒲生昌
明 (学糸8) 小林志寿子 (養1) 宮下
園子 (養1) 南波とり (旧教) 西条純
子 (旧教) 岡富静子 (旧教) 渡辺たい
(旧教) 上野倭子 (旧教) 茨木こう
(旧教) 清水ゆき (旧教) 蓬田タニ
(養8) 金井さと (旧教) 松田豊子
(養5) 土屋正次 (養3) 保科つたえ
(養6) 鷹野和子 (養7) 建部すぎ
(旧教) 土屋みす (旧教) 竹田すみ (旧
教)
- 9 安筑支会
5,000円 松岡潔 (蚕14)
4,000円 伊藤二男 (紡17)
3,500円 田代毅 (糸27)
2,000円 芹沢暢明 (農1)
1,000円 五味宏 (学糸6) 西山繁 (学
蚕4) 川井希太郎 (糸27) 武者忠彦
(糸22) 丸山宜重 (農4)
- 10 竜川支会
2,000円 桜井卓三 (糸12) 伊藤文男
(蚕32)
1,000円 久保田楨二 (蚕別4) 筒井
忠夫 (学蚕2) 滝沢甚吾 (学蚕1) 中
島勇 (蚕別7)
- 11 岐阜支会
4,000円 岩田久太夫 (糸23)
2,000円 垣水富郎 (農4)
- 12 静岡支会
4,000円 青木幹夫 (蚕22)
2,000円 上原教史 (紡28) 田中和徳
(蚕38)
1,000円 滝沢孝正 (学化5)
- 13 愛知支会
5,000円 北沢琢郎 (紡12)
1,500円 尾崎輝寿 (紡30) 風間和雄
(化9)
1,000円 中島真太郎 (化7) 武末利
也 (学紡3) 望月武則 (学蚕6) 大久
保福三郎 (糸6) 金井寛太郎 (学紡
1) 青柳正人 (学化5) 笠原昭重 (学
化5) 太月昭夫 (学紡5)
- 14 三重支会
10,000円 白沢幹 (蚕5)
3,000円 鈴木高行 (蚕24)
- 15 近畿支会
5,000円 中尾七郎 (紡5) 橋本和夫
(紡6) 手塚雄一 (糸6)
4,000円 上田正三 (紡15)

小 計 278,400円
累 計 4,718,450円

用新案 出願・審判・訴訟代理
商標

特 許 事 務 所

弁 理 士 浜 香 三

事務所 東京都千代田区麹町三丁目一番地
大野晋特許事務所内
電話 (80) 1444 番

むさしの市緑町・公園住宅7の302

編 集 後 記

学内は3月新進有為の卒業生を社会に送り4月は希望に充
ちた入学生を迎えることになりました。官庁も会社も計画実
施のいわば新年というわけであります。
会員皆様の多大の御協力による50周年記念事業も実施の年
となり着々進捗しております。
この意義ある年に学部振興対策も本格的に力を入れ真に学
問探究の学部であり、繊維産業振興のよりどころとなるため
会員皆様の格別の御鞭撻御支援を切にお願いします。

編集理事 田口 亮平 白井 美明
編集部員 矢野沢清允 降旗 剛寛
小笠原 真 滝沢 達夫
篠原 昭 白井 要範